

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 1 年 6 月 13 日 (2019.6.13)

【公表番号】特表 2018-523715 (P2018-523715A)

【公表日】平成 30 年 8 月 23 日 (2018.8.23)

【年通号数】公開・登録公報 2018-032

【出願番号】特願 2017-559387 (P2017-559387)

【国際特許分類】

C 0 9 J 7/40 (2018.01)

C 0 9 J 201/00 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

C 0 9 J 7/30 (2018.01)

C 0 9 J 7/10 (2018.01)

C 0 9 D 7/65 (2018.01)

C 0 9 D 183/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 J 7/40

C 0 9 J 201/00

B 3 2 B 27/00 M

C 0 9 J 7/30

C 0 9 J 7/10

C 0 9 D 7/65

C 0 9 D 183/04

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 5 月 7 日 (2019.5.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 1 5 0 】

特許証のために上記出願に引用された全ての参考文献、特許又は特許出願は、一貫してその全文が参照により本明細書に組み込まれている。組み込まれた参考文献の部分と本出願の部分との間に不一致又は矛盾がある場合は、前述の説明の情報が優先される。特許請求される開示を当業者が実施することを可能にするために示される前述の説明は、特許請求の範囲及びその全ての均等物によって規定される本開示の範囲を限定するものとして解釈されるべきではない。本開示の実施態様の一部を以下の [項目 1] - [項目 1 5] に記載する。

[項目 1]

転写テープの製造方法であって、

第 1 及び第 2 の剥離コーティングをバックングの各々の第 1 及び第 2 の主面に配置して剥離ライナーをもたらしことであって、前記第 1 の剥離コーティングが、ポリマー層に少なくとも部分的に埋め込まれているワックス粒子を含むことと、

接着剤前駆体を前記第 2 の剥離コーティングにコーティングすることと、

前記接着剤前駆体及び前記剥離ライナーを電子ビームにより集合的に照射して、前記接着剤前駆体を接着剤層に変換することを含む方法。

[項目 2]

前記第 2 の剥離コーティングが、ワックス粒子を実質的に含まない、項目 1 に記載の方

法。

[項目 3]

前記接着剤前駆体が未硬化発泡接着剤層を含む、項目 1 又は 2 に記載の方法。

[項目 4]

前記接着剤前駆体が、前記未硬化発泡接着剤層の両側に配置された一对の未硬化接着剤スキン層を更に含む、項目 3 に記載の方法。

[項目 5]

前記ポリマー層が、シリコーン、フルオロシリコーン、シリコーンアクリレート、ペルフルオロポリエーテル又はこれらのコポリマー若しくは混合物を含む、項目 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の方法。

[項目 6]

前記ワックス粒子が、変性高密度ポリエチレン、変性ポリエチレン、ポリテトラフルオロエチレン変性ポリエチレン、ポリプロピレン、フルオロポリマー、エチレンアクリル酸コポリマー、酸化高密度ポリエチレン又はこれらのコポリマー若しくは混合物を含む、項目 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の方法。

[項目 7]

前記ワックス粒子が、0.2 マイクロメートル ~ 50 マイクロメートルの範囲の質量中央径 (D_{50}) を有する、項目 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の方法。

[項目 8]

前記ワックス粒子が、1 マイクロメートル ~ 30 マイクロメートルの範囲の質量中央径 (D_{50}) を有する、項目 7 に記載の方法。

[項目 9]

前記ワックス粒子が、5 マイクロメートル ~ 10 マイクロメートルの範囲の質量中央径 (D_{50}) を有する、項目 8 に記載の方法。

[項目 10]

前記転写テープをロールに巻き取り、それによって、前記接着剤層を前記第 1 と第 2 の剥離コーティングの両方に同時に接触させることを更に含む、項目 1 ~ 9 のいずれか一項に記載の方法。

[項目 11]

前記第 2 の剥離コーティングが、180°剥離接着力試験に基づいて、前記接着剤層に対する前記第 1 の剥離コーティングの剥離力の 1 パーセント ~ 70 パーセントの範囲の剥離力を有する、項目 1 ~ 10 のいずれか一項に記載の方法。

[項目 12]

項目 1 ~ 11 のいずれか一項に記載の方法により製造される転写テープ。

[項目 13]

第 1 の主面及び反対側の第 2 の主面を有するバックング、

前記第 1 の主面に配置された、ポリマー層に少なくとも部分的に埋め込まれているワックス粒子を含む第 1 の剥離コーティング、及び

前記第 2 の主面に配置された第 2 の剥離コーティングを含む剥離ライナーと、

前記第 1 の剥離コーティングに配置され、熱及び光化学開始剤を実質的に含まない接着剤層とを含む、転写テープ。

[項目 14]

前記転写テープが巻取形状を有し、それによって、前記接着剤層が前記第 1 と第 2 の剥離コーティングの両方に接触する、項目 13 に記載の転写テープ。

[項目 15]

項目 12 又は 13 に記載の転写テープと、

前記第 1 の剥離ライナーに面している前記接着剤層の主面とは反対側の主面に接着結合した基材とを含む、結合可能なアセンブリ。

【 手続補正 2 】

【 補正対象書類名 】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

転写テープの製造方法であって、

第 1 及び第 2 の剥離コーティングをバックングの各々の第 1 及び第 2 の主面に配置して剥離ライナーをもたらしことであって、前記第 1 の剥離コーティングが、ポリマー層に少なくとも部分的に埋め込まれているワックス粒子を含むことと、

接着剤前駆体を前記第 2 の剥離コーティングにコーティングすることと、

前記接着剤前駆体及び前記剥離ライナーを電子ビームにより集合的に照射して、前記接着剤前駆体を接着剤層に変換することを含む方法。

【請求項 2】

前記第 2 の剥離コーティングが、ワックス粒子を実質的に含まない、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記接着剤前駆体が未硬化発泡接着剤層を含む、請求項 1 又は 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記接着剤前駆体が、前記未硬化発泡接着剤層の両側に配置された一对の未硬化接着剤スキン層を更に含む、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記ポリマー層が、シリコン、フルオロシリコン、シリコンアクリレート、ペルフルオロポリエーテル又はこれらのコポリマー若しくは混合物を含み、かつ、前記ワックス粒子が、変性高密度ポリエチレン、変性ポリエチレン、ポリテトラフルオロエチレン変性ポリエチレン、ポリプロピレン、フルオロポリマー、エチレンアクリル酸コポリマー、酸化高密度ポリエチレン又はこれらのコポリマー若しくは混合物を含む、請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 6】

前記転写テープをロールに巻き取り、それによって、前記接着剤層を前記第 1 と第 2 の剥離コーティングの両方に同時に接触させることを更に含む、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 7】

請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載の方法により製造される転写テープ。

【請求項 8】

第 1 の主面及び反対側の第 2 の主面を有するバックング、

前記第 1 の主面に配置された、ポリマー層に少なくとも部分的に埋め込まれているワックス粒子を含む第 1 の剥離コーティング、及び

前記第 2 の主面に配置された第 2 の剥離コーティングを含む剥離ライナーと、

前記第 1 の剥離コーティングに配置され、熱及び光化学開始剤を実質的に含まない接着剤層とを含む、転写テープ。

【請求項 9】

前記転写テープが巻取形状を有し、それによって、前記接着剤層が前記第 1 と第 2 の剥離コーティングの両方に接触する、請求項 8 に記載の転写テープ。

【請求項 10】

請求項 7 又は 8 に記載の転写テープと、

前記第 1 の剥離ライナーに面している前記接着剤層の主面とは反対側の主面に接着結合した基材とを含む、結合可能なアセンブリ。